# **はじめに**

**人生百年時代**

　この言葉を聞いて、将来に明るい希望をもつことができている方が、いったいどれくらいいるのでしょうか。

　少子化や高齢化の話は、二十一世紀を迎える前から出ていた話です。

　それなのに、今現在は少子高齢化で大変な社会になっていると言われるばかりです。でも、こうなることはかなり前から分かっていたはずなのです。

**対策はできなかったのでしょうか。**

**方法が思い付かなかったのでしょうか。**

**どうにかなると思っていたのでしょうか。**

　実際のところは分かりませんが、とにかく無策状態にしか見えず、このような状態になってしまった今では、現状を打破できる予感も感じることができません。

　わざと日本を壊そうとしているようにすら感じてしまうのは私だけでしょうか。

　こんな中で、人生百年時代だと言われたところで、不安になるのもよく分かります。百歳の時に楽しく生活できている自分を想像できるかどうかということですね。

　もうすでに、日本の仕組みがどんどん壊されてここまで来ています。

　政治はどこの国のためか分からない（逆に分かることもありますが）政策で、今後もこの国を壊していくのではないかと不安になります。

　ですから、希望がもてないという気持ちはよく分かるのです。

　でも、せっかくなんですから、明るい未来を生きたいと思いますよね。

　現在の状況を見て、今の日本がどんな問題をかかえているのかについて考えることで、もしかしたら解決の糸口が見つかるかもしれません。

　その問題を解決するために必要なものは、実は私たちはすでにもっているものなのかもしれません。

　歴史からも見えることはたくさんあります。

　特にここ数年で、歴史について、新たなことが次々と明らかになってきています。

　YouTubeなどで発信してくださっている方もたくさんいらっしゃって、とても勉強になります。

**愚者は経験に学び　賢者は歴史に学ぶ**

という言葉があります。

　歴史を知るだけではなく、その知識をどう生かしていくのかを考えることが大事です。それが学びです。

　その結果、みんなが明るい未来への意識をもつことができれば、その未来は現実になると思います。

　そんな気持ちで本書を書きました。

　しばしお付き合いください。

晴田 武陽

**目次**

[はじめに](#_Toc176196984)

[第一章　今の世の中を考える](#_Toc176196985)

[**一　正しい情報を得るのが難しい**](#_Toc176196986)

[**地動説**](#_Toc176196987)

[**ハレー彗星**](#_Toc176196988)

[**オイルショック**](#_Toc176196989)

[**２０００年問題**](#_Toc176196990)

[**そのほかにも...**](#_Toc176196991)

[**二　意識の操作**](#_Toc176196992)

[**三　聞かない姿勢**](#_Toc176196993)

[**四　議論をかみ合わせない**](#_Toc176196994)

[**五　対立させて隠す**](#_Toc176196995)

[**六　今の世の中に至る道筋**](#_Toc176196996)

[**正しい情報こそ重要**](#_Toc176196997)

[**破壊された日本**](#_Toc176196998)

[**権利主義**](#_Toc176196999)

[**戦後の流れ**](#_Toc176197000)

[第二章　歴史に見る日本人の本質](#_Toc176197001)

[**一　七大文明に数えられる日本文明**](#_Toc176197002)

[**二　明らかになってきた縄文時代の姿**](#_Toc176197003)

[**文明としての縄文**](#_Toc176197004)

[**縄文時代の道具**](#_Toc176197005)

[**縄文に注目するべき理由**](#_Toc176197006)

[**三　違いは何か**](#_Toc176197007)

[**争いが起こる原因**](#_Toc176197008)

[**日本人が理解しにくい要因**](#_Toc176197009)

[**四　神道について**](#_Toc176197010)

[**神道の懐**](#_Toc176197011)

[**日本人の特性**](#_Toc176197012)

[第三章　和の心](#_Toc176197013)

[**一　大切にするべきこと**](#_Toc176197014)

[**程度の低い二元論からの脱却**](#_Toc176197015)

[**聖徳太子の偉大さ**](#_Toc176197016)

[**二　和の心のあり方**](#_Toc176197017)

[おわりに](#_Toc176197018)

# **第一章　今の世の中を考える**

　人生百年時代と言われ始めたのはいつ頃のことでしょうか。

　それは本来希望に満ちた言葉であるはずですが、逆に不安になるようなことも、一つやニつではありません。

　老後問題なども、貯蓄がいくら必要なのか、実際のところははっきりしませんし、医療にかかる金額も、どう変化していくのか、悪い予感しかありません。

　今の世の中は果たして、私たちにとって優しいのか、冷たいのか、または、厳しいのか、そんなところから考えていきたいと思います。

　結論から言うともうこれは冷たく厳しい社会だなと思ってしまいます。

　まずは、私がそう考える理由を述べていきましょう。

## **一　正しい情報を得るのが難しい**

　まず前提として、日本は民主制の国です。

　それは誰でも知っていることなのですが、民主制というのは、国民がきちんとものごとを判断できる環境が、しっかりと整っていることが前提になるものだと思います。

　その環境とは何かというと、必要な情報が正しく伝わるということになってくるのではないでしょうか。

　当然ですが、必要な情報がなければ判断することができません。

　情報がなく、好き嫌いなどの感情で判断すれば間違いが増えてしまうことでしょう。

　選挙の時に、なんとなくで投票してしまうと、後々取り返しのつかない事態になってしまうことにもなりかねません。

　実際、すでになっているかもしれません。

　また、間違った情報が蔓延すれば正しい情報を見抜いて判断することはなかなか難しくなります。

　たとえば、数年前に正しいと言われていた情報が、実は作為的に流された偽情報で、実際のところは陰謀論などと叩かれながらも、警鐘を鳴らすような情報を発信していた少数派の方々が正しかったということがあります。

　こういったことが、当たり前に現在も起こっていることを実感している人も多いのではないでしょうか。

　誰かに都合のいい情報が作為的に流されるのは、歴史を見ても普通にありますし、そもそも集団を間違った方向に誘導しようとしているのですから、当然その情報は多数派の意見になってしまうわけです。

　ですから、みんなが同じことを言っているから、きっと正しいのだろうと言う安易な考えは、危険極まりないのです。

　国の借金というキーワードで語られる国債と財政破綻の話にしてもそうですし、今さまざま明らかになっている嘘は、ずっと前から一部の人が叫んでいた情報なのです。

　例のあの問題もそうですが、歴史から考えると見えてくる事実として、大きな問題に関しては、少数派が正しいということが多いように感じてしまいます。

　いくつか例を見ていきましょう。

### **地動説**

　地動説とは、現在は当たり前に小学生でも知っていることで、ざっくり言えば

**太陽が地球の周りを回っているのではなく**

**地球が太陽の周りを回っている**

という話ですよね。

　ですが、これは当時受け入れられない情報でした。

　それで弾圧されました。

　地動説を唱えた人物としてはガリレオが有名ですが、他にも何人もいて、中には処刑された人もいます。

　ですが、実際には

**地動説が正しかった**

というのが歴史の事実です。

　余談ですが、それより古い文明では、すでに地球が太陽の周りを回っていることは分かっていたことなのに、退化してしまっているというのもおかしな話です。

### **ハレー彗星**

　１９１０年の実際にあったお話です。

　ハレー彗星が近付くと

**地球の空気が５分間なくなる**

というような情報が流れたと言います。

　私たち現代人からしてみれば、「そんなわけないじゃん」と思うのですが、当時の記録を見ると、実際に多くの人が信じたわけです。

　その結果人々はパニック状態になります。

　冗談みたいな話ですが、学校では水を溜めた洗面器を用意して、５分間息を止める練習をしたり、金持ちはゴムチューブを買い占めたりと、生き残るために本気で行動したようです。

　また、これを利用して、詐欺で儲けるなどの行動もあったようです。

　逆に全財産を使い切る人もいたということです。

　では実際どうだったかというと、ご存知のように、そんなことは起こりませんでした。

　その後の話はあまり分かりません。

　お金を遣ってしまった人はどうなったのでしょう。

### **オイルショック**

　１９７３年のオイルショックの時に、

**トイレットペーパーがなくなる**

という話が広まりました。

　店では行列ができて、トイレットペーパーが売り切れ状態になりました。

　しかし、皮肉なことに、買い占めがあったせいでトイレットペーパーがなくなるという状況になったのです。

　そもそもトイレットペーパーはなくならなかったはずでした。

　でもこれに関しては、形を変えてその後も起こっています。

　中には信じてないのにとりあえず列に並んだという方もいたようです。

　よく分からないけど、とりあえずみんながやっているからやるという感じですかね。

　心理学で言われるバンドワゴン効果ですね。

### **２０００年問題**

　まだ記憶に新しい２０００年問題というものもありました。

　それまで、年号を表すのに西暦の末尾２桁でプログラムしてしまっていたものを、そのままにすると２０００年になったときに「００」となってしまうということで、そうなると、システムが１９００年として認識してしまい、大変なことになる可能性があるという話でした。

　二桁を四桁に直す作業なのですが、人手が足りず、２０００年までに間に合わない可能性が叫ばれました。

　この時には、

**水が出なくなる**

という噂が流れ、ホームセンターでポリタンクを購入する人が続出しました。

　自分はよく暇つぶしでホームセンターに行っていたのですが、出てくる人出てくる人、ポリタンクを両手に持っている光景は、ちょっと異様でした。

　こういう時は何も起きないと確信していたので、両親に「どうせ水は出るし、買っても後悔することになるから、ポリタンクは買わない方がいい」と言ったのですが、気付くと家にポリタンクがあってガッカリした記憶があります。

　結論から言うと、水は出続けました。

### **そのほか**

　時代が近付きすぎてしまったので、これ以上は例として載せませんが、こういった視点で見てみると、いまだに同じようなことがあることに気付きます。

　中には、意図的に人々をコントロールしていることもありそうです。

　その場合に流される情報は、誰かの利益のための情報です。

　よくよく検証すると話におかしい点が見つかるのです。そしてどんどん話の内容が変わっていくのです。誰が儲かっているのかが大事な視点です。

　最近目覚めた人が増えてきた財政問題なんかは分かりやすいです。

　財政が破綻するとかハイパーインフレになるとかの話を、何十年も前から言っていて、その当時で言えば、今はすでにそうなっていてもおかしくない状況なのに、なっていないという現実があり、つまりは、

**当時言っていたことは間違いだった**

ということがある意味で証明されているわけです。

　それにもかかわらず、今になっても同じようなことを言っている人がいて、同じように騙される人がいて、とても残念な気持ちになります。

　中には、過去の言動がなかったかのように、まったく別の意見を言っている厚顔無恥な人もいるようです。

　ますます残念な気持ちになります。

　あれは誰の利益のためでしょう。

　調べれば答えはすぐに出るのでしょう。

　このように、誰かの利益のために情報が流されるのが世の常なので、今後もなくならないのではないかと思います。

　この視点をもたないと、メディアで流される情報にコントロールされてしまいます。悪い言葉で言うと、情報操作です。

　ただし、この視点をもった上でメディアを活用するならば、世の中の流れが見えるようになるのではないかと思います。

　間違いなく言えるのは、正しい情報は自分で取りに行くしかない社会なんだということです。

　そして一つの判断材料として、大勢の人がわけも分からず騒いでいるときは、心配ないということです。

　これまで見てきた歴史の事実から学べます。

　更にいうと、一部の人だけが警鐘を鳴らしていて、周りが騒がない時は、注意が必要だということになります。

## **二　意識の操作**

　方向性を決めて、そこに誘導するよう情報を操作する。

　そう聞くと、専制君主制の話だと思う人もいるかもしれません。

　でもこれは今現在も、この日本で普通にされているということが理解できたと思います。

　操作されている意図的な情報の例ですと、先程も例に出した国債問題があります。

　国債は国の借金でもないし、もちろん国民の借金でもないです。国民一人あたりいくらだとか言っているのは間違った情報です。

　まず国の借金ではなく、政府の借金ですのでその時点で大間違いです。

　国というレベルで見れば日本は外国に貸している側で、世界一のお金持ちということになります。

　そして、当たり前の原則として、借金している人がいたら、必ず貸している人がいるのです。

　貸している側は政府と反対側の民間になるのです。国民は政府ではないので、国民の借金になんてなりません。

　でも日本人はみんな素直でいい人なので、国が危ないんだったら税金上がっても仕方ないかってなります。

　社会保険料が足りないなら消費税も仕方ないってなります。

　まったく仕方なくないですし、消費税について調べたら残念な気持ちにしかなりません。消費税は悪税です。

　ですが、マスコミはそこには触れません。例のあの組織に逆らうようなことをすると面倒なことになるからですね。

　だいたい、ろくでもないことをするタイミングでは、肩書きがあったり、有名だったりする誰かがそれっぽいことを言って、これは仕方ないことだっていう空気感を作ります。

　その人がちゃんと理解したうえで、あえて間違ったことを言っているのか、それとも残念なことに、本気で勘違いをして正しいと信じて言っているのかは不明です。

　それを聞いて、この人がこう言っているならこっちが正しいんだと多くの人が思ってしまいます。

　そうやって、完全にコントロールされています。

　最近はそういうカラクリに気付いてきた人が増えていますが、まだまだ少数派です。全体に広がっていかないと大変なことになります。

　政治をコントロールするのは国民でなければ民主制とは言えません。

## **三　聞かない姿勢**

　今は、誰でも情報を発信できる時代になりました。

　ですから、正しい情報を発信する人もたくさんいます。

　それなのに、なぜ間違った情報に気付くことができないのでしょうか。

　まず、正しい情報を伝えても、間違った情報につま先から頭のてっぺんまで、どっぷりつかっている人には、全否定されてしまうことが大半です。

　ある種の洗脳をされて、疑問をもたなくなっている人たちは、自分たちの理解の外にあるものを

**「陰謀論」**

**「都市伝説」**

という言葉で片付けて思考停止してしまいます。

　あとは、これまで信じてきたことを否定することが、自己否定をするような感覚に感じてしまうのかもしれません。

　そもそも、相手の話を聞く気はないわけです。

　聞かないのですから理解できるはずがありません。

　知識もアップデートされません。

　だから、騙されていると気付くことができないまま、いつまでも騙され続けるのです。

　間違った知識に固執して、新しい知識を否定するので、なにも前に進めないどころか、残念なことになってしまい、そうやって三十年経ってしまいました。

　失われた三十年というやつです。

　そもそも、それまでの専門家という方々の意見や、政府の政策が間違っていなければ、まず為し得ないであろうマイナスの成果です。

## 

## **四　議論をかみ合わせない**

　議論をするには、相手の言っていることをきちんと理解して、その上で反論するのが筋だと思います。

　ところが、わざとそうしているのか、それとも、普通に理解力がないのかは不明ですが、そこの筋がまったく通せていないなと感じることが多いです。

　たとえば、国債を発行して財政出動しましょうと言っている方々は、国債を無限に発行しろとは言っていないのです。

　「インフレ率を見ながら財政出動して、お金が出回り過ぎたら税金で回収して経済をコントロールするんですよ」という話をしているのです。

　それなのに、否定派の人、緊縮財政派の人は、「国債を無限に発行したらハイパーインフレになるから話にならない」的なお話のみで、的が外れているのです。

　毎月ものの値段が五〇％ずつ上がるのがハイパーインフレで、一年後には値段が百倍になります。定義を知らずに言ってるのではないかと疑わしい人もいます。

　とにかく、もしかしたら、わざとなのかもしれませんが、まったく相手の言ってることを理解できていないように感じてしまいます。

　あと深刻な問題なのは、マスコミが双方の意見を掘り下げもせずに、否定側の話ばかりを取り上げるので、新聞やテレビでしか情報を得ていない人は、簡単にコントロールされてしまうというところです。

　メディアは流したい情報だけ流すことができるのです。

## **五　対立させて隠す**

　集団が一致団結した時のパワーはすさまじいものがあります。

　その集団にいるのならば、それは頼もしいものですが、逆側にいる場合には、相当な脅威と感じるのではないでしょうか。

　そこで取られる方策は、集団を一致団結させない、つまりは分断させることです。

　そのために、対立させて、争わせるのです。

　こういったやり方は、世界の歴史に度々登場し、現在でも領土問題などの大元を調べると、この方式が採用されていることが見えてきます。

　今でも普通に、すぐそこで使われているのです。

　例えば、高齢化社会と少子化についてもそれが見られます。これは個人的な考えではなく、様々な方が指摘しています。

　例として挙げると、少子高齢化による働き手の不足で、現役世代一人当たりの負担額が上がっているというような報道がされていました。

　そうすると、なんと、高齢者叩きをする人が出てきてしまいました。

　その行為が、明日の自分を叩いていると気付いていないのかもしれません。今しか見えていないのではないかと、心配になります。

　中には、さも当然のように、高齢者の負担を増やせという方がいますが、現にそのようになってきてしまっているのですが、一部で指摘されているように、高齢者の負担を増やすとは言っても、若者の負担を減らすなんてことは誰も言っていないのです。

　若者の負担が上がっているから高齢者の負担を上げるという話は、一見まともそうに感じてしまいますが、よく考えればおかしなことなのです。

　若者の負担を下げて、高齢者の負担を上げるという話ならば、それをするのが良いか悪いかは別として、まだ分かります。ですが、その重要な、負担を下げるという話は出てきません。

　だから、結局のところ、負担は変わらないのです。

　つまり、今の負担はそのままに、将来の負担が増えるということになります。

　これは、単に自分たちの将来を暗くするだけでしかありません。これに賛同する人たちというのは、自分たちは老人にならないと思っているのでしょうか。

　よく考えないと騙されます。

　では本来どうするべきなのかというと、国民ができないことをやるのが政府の役割なのですから、若者の負担を減らして、その分を政府が負担すればいいという話になるのです。

　それによって、社会で使えるお金が増えて、その結果経済が回って、やがて税収が増えるというサイクルができます。

　高齢者も負担が上がらなければ、生活に使うお金に余裕ができるのですから、他でお金を使えるようになります。

　高齢者がお金を使わないから世の中にお金が回らないなどという方がいますが、その解決手段は医療負担を増やすことではないわけです。

　医療のために、ますます他で使わずに、貯めておくことにもつながってしまいそうです。

　どこが大事かというと、政府が負担するというところです。

　それには国債の発行が必要になります。国債発行に関する嘘に関しては、今や多くの方が情報を発信されていますので、ちょっと調べれば誰でも分かります。

　ところが、お金を使わせたくない組織があるので、国債の発行は悪だと刷り込んで、その選択肢を排除しているとも言われます。

　そうしておくことで、「お金が足りないから税金を上げますよ」「お金が足りないから出すお金は減らしますよ」という流れにもっていきやすくしているようです。

　そして、大した対策もせずに放置した責任は棚に上げて、そもそも少子高齢化が原因なんですよと、そこをやり玉に挙げることで、都合の悪いことからは、目をそらさせようとしているようにしか思えません。

　その結果、「少子高齢化＝悪」という刷り込みがなされて、高齢者を優遇しすぎているという議論になってしまうわけです。

　「国民VS政府」という図式にならないように、「若者VS高齢者」という図式にさせられたような気さえします。

　もしそうなら思うつぼです。

## **六　今の世の中に至る道筋**

　改めて感じるのは、現在は冷たく厳しい社会になってしまったということです。

　そして、それはどうも仕組まれているようにも感じてしまいます。

### **正しい情報こそ重要**

　情報が作為的に流されることで、無用な対立の構造が作られ、本当に目を向けなければいけないところから目をそらされている気がします。

　そして、残念なことですが、自分さえ良ければいいという考え方が増えました。

　慮りの欠如です。

　「今だけ金だけ自分だけ」という言葉でよく表現されます。

　偽情報に踊らされてしまうのは、正しい情報を知らないからです。

　ですからまずは、正しい情報がちゃんと入る環境を整える必要があります。

　ですが、そもそも、なぜこんなにも正しい情報を得ることが難しい国になってしまったのでしょうか。

### **破壊された日本**

　第二次世界大戦後に、ＧＨＱによって、日本の構造が大きく変えられました。

　戦争に負けたからなのですが、それにしてもアメリカがやったことは当時の国際法違反です。

　日本人はこの時から、自国の歴史を学ぶことを禁止されて、その後も復活することなく今に至ります。

　そして、ＷＧＩＰ (ウォー・ギルト・インフォメーション・プログラム) によって、日本は悪でアメリカが正義という刷り込みを徹底して行いました。マスコミはもちろん、情報操作の道具として使われました。

　これは今も変わりないわけです。日本に都合の良いことは報道しません。

　マッカーサーは、後にアメリカの議会で、

　「あの戦争は、日本にとって自衛のためだった」

という内容の発言を行っていますが、そのことは特に知らされることもなく、今でも知らない日本人が多いようです。

　さて、あの戦争は「大東亜戦争」とよばれていましたが、「太平洋戦争」と名前を変えられて今に至ります。今でも、「大東亜戦争」は禁止ワードになっていて、その名前を出そうものなら、それだけで右翼扱いです。中身の考えなど知ろうともしません。

　「日本国憲法」に関しては、マッカーサーが六日間で作った草案を翻訳したものだと今でさえ知らない人がたくさんいます。

　以前見た教科書で、日本人が平和のためにみんなで作ったというような嘘が書かれていて残念で情けない気持ちになりました。

　当時、日本人も新憲法の草案を作成していましたが、マッカーサーは内容が不十分（マッカーサーの意向に沿っていない）だと激怒して却下しました。それで、もう日本人には任せておけないということで、自ら動いたのです。

　その後、マッカーサーの作った日本国憲法の内容に納得しない日本側に対して、「これを受け入れないと天皇がどうなるか分からない」というようなことを言って脅したそうなのです。

　その時の憲法が今まで大切にされているというのが現状です。

　あれは平和憲法ではなく、弱体化憲法だったというのが事実です。

　こういう単なる事実を言っても、すぐに右翼だと言われてしまいます。

　話を戻します。

　当時の首相の吉田茂は、マッカーサーの腰巾着のようなものでした。

　マッカーサーが本国に帰るときには、絶望で泣いたという、どこの国の人間か分からないような情けない話も残っています。

　本来なら占領が解けたタイミングで憲法を作り直すべきだったと思いますが、首相がそれでは無理な話です。その弊害が今も残ってしまっています。

　さらにあきれる話があり、一部の著名人たちは、マッカーサー神社を建てようと計画していたそうです。実現しなくて本当に良かったと心の底から思います。

　どれだけ洗脳されてしまったのかとため息しか出ません。

　その後もゆがんだ歴史教育などによって、自国についての真実を簡単には知ることができない体制が続き、国に誇りをもてないような国民が増えていきました。

　完全に歴史を分断されてしまったのです。

　日本人を育てる土台が崩されたのです。

　マッカーサーの「五十年後の日本を骨抜きにしてやる」という言葉は現実になってしまったようです。

### **権利主義**

　権利は大事だということは分かりますが、何でも行き過ぎると毒になります。

　もともとこれは、日本が強い理由が、家族制度にあるということを分析したアメリカが、それを解体するために個人主義を広める作戦だったとも言われます。

　もちろん家制度で苦しんだ方もいるでしょうし、必ずしも古いものが正しいわけではないということは誰もが認めるところでしょう。

　一方で、権利主義の横行によって、自分のことしか考えないという土台ができていったことも否めないと思います。

　ですが、こんなことを言うとすぐに、差別主義者だと決めつけられてしまうわけです。

　短絡的で極端過ぎる社会にされてしまいました。

　ようするに、白か黒かだけで灰色を認めないような社会です。

### **戦後の流れ**

　この時代については、挙げればきりがないほど様々な事実が分かっていますが、本書ではここまでにします。

　まとめると、戦後は徹底的に日本を弱体化させるために、もともとあったものを破壊して、アメリカに都合のいい国に作り替えられていきました。

　それもゆっくりと時間をかけて確実にです。

　でも、もうそろそろ、もともとあった日本そのものを思い出し、取り戻すべきだと強く思っています。

# **第二章　歴史に見る日本人の本質**

　歴史の教科書は常に最新のものだと考えている人もいるようですが、まったくそんなことはなく、むしろだいぶ遅れていると言えます。

　また、前章でも触れましたが、日本の教科書は世界的にも特殊で、自国の正しい歴史も学ぶことができず、自分の国に誇りをもてるような内容にもなっていません。それどころか、日本人の中に、日本を貶める人が少なからずいることが残念です。

　そんな現状を憂い、まともな教科書を作ろうとしている方もいますが、誰にとって都合が悪いのか、弾圧されてしまっています。

　そのあたりについては、これ以上本書で突っ込んで考察することはしませんが、少なくともこの国がどんな歴史をもつ国なのかという、基礎的な部分については、すべての日本人が知っておくべき話だと考えています。

他の国なら当たり前に学校で習うレベルの話なのですから。

「国史」という教科がない国など日本ぐらいです。それも、戦後禁止されたところまでは理解できますが、占領が終わった後も大事に大事にそれを守って来たという事実は、心の底から残念でなりません。

　前章では、現在が冷たく厳しい社会になってしまっていて、「今だけ金だけ自分だけ」の人が増えてしまっていることに触れました。

　その大きな原因は戦後にあることも確認しました。

　ですが、本来の日本人はこうではなかったはずだと自分は思いますし、多くの方が同様のことをお話しされています。

　この章では、日本の歴史や文化などに、焦点をあてて、日本人の本来の姿について考えていきたいと思います。

## **一　七大文明に数えられる日本文明**

　すでにご存知の方もいるかと思いますが、サミュエル・P・ハンティントン氏の著書『文明の衝突』では、独立した文明の一つとして、日本文明が挙げられています。

　古代文明にしても、四大文明などと習っているのは日本だけだという話です。

　なぜかはまったく分かりません。

　これも誰かの都合なのでしょう。

　話を戻しますと、外国では事実として、日本が独自の文明であると認識されているそうです。学校でも教わるようです。

　普通はそういう誇るべきことは、真っ先に自国民に知らせるべきことではないか、義務教育で教えるべき内容なのではないかと、私などは思うのですが、まったく知らされることはないわけです。

　自分で調べないと分かりません。

　本当に不思議な国だなと思います。

## **二　明らかになってきた縄文時代の姿**

### **文明としての縄文**

　それでは、縄文とは、どんな生活がなされていたのでしょうか。

　私は専門家ではありませんから、自分で発掘調査をしたり、痕跡を元に独自の見解を発表したりするような立場にはありませんので、ここまでに明らかにされた情報をもとにまとめていきたいと思います。

　もしかしたら、新たな事実が判明して、この情報が古くなる可能性もありますが、ご了承ください。

　さて、改めてですが、世界で一番長く続いた文明を聞かれたら、答えられるでしょうか。

　聞き覚えのある、エジプトでもなければ、メソポタミアでもなく、シュメールでもないのです。

　縄文なのです。

　縄文時代は、今や縄文文明とも呼ばれています。なんと、一万数千年間も続いた文明です。

　圧倒的です。

　いやいや、文明といっても石斧もって獣追いかけてワイワイ野性的な暮らしをしてたんでしょう？と思っている方がまだまだ多いと思います。

　なにしろ教科書に載っているのは、いまだにそんな感じです。

　でも、世界は縄文文明に大注目しているのです。

　それを一番知らないのは日本人です。

　意図的なものを感じてしまいます。

　縄文時代の発掘物には、装飾品がたくさんあるようです。

　そう聞いても、「そうなんだ。それで？」となるかもしれません。

　では、これがどういうことかというと、

**生活に余裕があった**

**心に余裕があった**

ということが言えると思います。

### **縄文時代の道具**

　考えてみて欲しいのですが、その日に食うに困る人が、装飾品になんて意識をむけることはできないわけです。

　食べられないと死んでしまうので、どう食べるかということが重大事項になります。その他のことはその後です。

　ましてや、狩猟中心の生活をしている時代なので、なおさらだと思います。

　そんな中では、装飾品を作る技術も当然ですが、発展しません。

　装飾品の技術を磨いても腹は膨れないからです。

　職人的な立場の人がいたという話もありますが、なおさら余裕がないと、わざわざ装飾品と食料を交換するはずがないわけです。

　土器なんかもそうです。

　縄文土器は誰でも手軽に作れるようなものではないという話や、水洗いだけで油もきれいに洗い流せるという話を読んだ記憶があります。

　さらに、芸術家の岡本太郎氏がそれを見て感動したという、火焔型土器というものもあります。生活で使うというより芸術品のような土器です。祭祀に使用されたのかもしれません。

　どちらにしても、生活に余裕がないと、この形を作ること自体を、思いつくことがないような気がします。

　縄文という名前の元になっている縄で模様を付けるという作業にしても、わざわざ模様を付けなくても問題ないわけです。  
　でも付ける余裕があったからこそ、付けたのでしょう。

　あとは、勾玉と言われるものを、一度は写真等で見たことがあると思います。

　勾玉の中には翡翠の勾玉なんかもあります。

　この翡翠ですが、実は全国どこにでもあるものではないということなのです。

　それどころか、採れる場所がかなり限定されると知りました。糸魚川は翡翠の一大産地だったようです。

　ところが、翡翠は産地以外にも、全国さまざまな場所の遺跡から出てくるわけです。離れた場所で使用されていたということは、交流があったということになります。糸魚川の翡翠も全国に流通していたようです。

　石器を作る黒曜石にしても、現在ではその産地が分かっています。

　中でも人気の質の高い黒曜石があったようです。驚くべきことに、神津島という無人島でしか採れないものが各地で使われていたことも分かっています。

　以上のことから分かることは、石器時代当時には、すでに、海を渡る技術があったということです。

　そして、交流があったからこそ各地に広がっているのです。

　縄文時代の人々が築いていた暮らしというものは、これまでの常識よりも、相当レベルが高かったことが明らかになってきているのです。

　でも教科書はなかなか変わりません。

### **縄文に注目するべき理由**

　さて、今回縄文について注目したのは、様々な技術がすごいということが理由ではありません。

　もちろんそこはすごいところですし、深掘りするといかに教わってきた歴史が間違っていたかが分かります。

　ですが、今回重視するところはそこではないのです。

　縄文が文明としてすごいところは別にあるのです。

　それは、戦争がなかったということです。

　縄文時代の発掘物からは、驚くほど対人の武器が出ないそうです。

　もちろんこれには様々な意見がありますが、世界の他の文明と相対的に比べてみると、圧倒的に平和な世界を築いていたことは、間違いないのではないかと考えられます。

　それも一万数千年の間です。

　だから文化が発展したんだろうと思うわけです。

　例えば、平安時代、もちろんさまざまな争いはありますが、全体的には平和な時代です。そしてご存知のように文化が発展しました。

　『源氏物語』をはじめとして、同時代の世界的に見て、レベルが相当高いのです。

　その後、戦国の世が始まってしまいますが、徳川家康が天下を治めるようになり、江戸時代に入ると、基本的には戦のない時代が続きます。

　江戸時代には様々な、世界に誇れる文化が発展しました。

　数学も科学も世界に引けを取りません。

　ゴッホも浮世絵を気に入っていて、数百点も所持していたという話は有名です。

　また、当時の江戸の人口は都市として世界一であるにもかかわらず、究極のリサイクル社会が成立していたという話も有名です。

　ありとあらゆることが江戸時代に発展しました。

　平和な時代に文化が発展するのは、心に余裕があるからなのでしょう。

　それ以前にも、江戸時代になる前に、キリスト教宣教使が報告として送った書簡でも、貧しいが素直で毎日明るく楽しく生活しているというような内容が書かれていたそうです。

　江戸時代は２６０年もの長い期間続きました。

　しかし、縄文時代は一万数千年です。

　もう桁が違います。

　日本人には遺伝子レベルで刻まれた、平和の記憶があるはずです。

## **三　違いは何なのか**

　では、現代の日本との違いはいったい何なのでしょう。

　なぜそういった平和を維持できる先祖をもつ日本人が、今のような社会を築いてしまったのでしょう。

　どうしたら争いが起きにくい社会になるのでしょう。

　そのために、まず、どんな時に争いが起こるのかということについて考えていきたいと思います。

### **争いが起こる原因**

　どんな時に争いや戦争が起こるのか。

　それは、国や人どうしの考え方や利益が対立した時ではないでしょうか。

　逆に、対立しなければ争いにならないはずですよね。

　価値観の対立と言えば、第一次世界大戦後に、国際連盟で人種差別撤廃を叫んだ日本でしたが、当時奴隷を当たり前に使っていた国にとってはそうとう邪魔だったと思います。なにしろ、多数決で賛成だったものを、ひっくり返してしまいました。

　国際連盟にとって、民主制は絶対ではなかったようです。

　この出来事は、その後の歴史の動きを見るにあたって、一つの起点になると思います。

　ちなみに、これは日本として誇るべき歴史だと思うのですが、教科書にあった記憶がないんですよね。

　ほんの一部の教科書にしか書いていないみたいなんです。

　そういう教科書はなぜか叩かれます。

　とにかく、考え方や価値観が違う時に、対立が生まれる傾向にあることは間違いないと思います。

　それで、国同士の対立から戦争になることがあるわけです。

### **日本人が理解しにくい要因**

　価値観にも様々ありますが、その価値観を形作るものに宗教もあります。

　実際、日本人としては、なかなか感覚的に理解できない戦争に、宗教がらみの戦争があります。

　世界では宗教を元にする対立が現在でも多いのではないでしょうか。  
　この対立がなくなったら多くの戦争が起きなくなるのではないかと思います。

　日本人にこれが理解しにくい原因は何なのでしょう。

　大きな要因として「神道」があると思っています。

　神道は自然や祖先を敬い、多様な神々を信仰するなど、他の宗教とは異なる特徴をもっていますが、それだけでなるほどとはなりません。

　個人的には、神道を宗教として考えること自体がズレた考え方で、神道というものは、もうすでに習慣そのものだと考えています。

　例えば、「私は無宗教です」と言いながら、神社に初詣に行く人は普通にいます。それに関して、日本人としては別に違和感なく受け入れることができる人が大多数だと思います。

　意識すらしていないかもしれません。

　でも外国人にとっては違和感だらけらしいのです。

　まったく理解できない感覚らしいのです。

　極端に言えば、生活の一部なのか、生活の大元なのかの違いかもしれません。

　それほど特殊で、宗教という単純なくくりにするにはあまりにも異質なものが神道であり、さきに出た宗教どうしの争いを解決できるのは、これもまた神道なのではないかと思っていました。

最近になって、同じ意見の方がけっこういることを知り、力強く感じています。

## **四　神道について**

　それでは、なぜ神道が宗教の争い事を解決できると考えるのかについて、いくつか例を挙げて見ていきたいと思います。

### **神道の懐**

　まず、神道のすごいところは、どんな神様でも認めて取り込んでしまうところだと思うのです。

　自分の神様と違うから悪魔だとはなりません。

　そこが他と異なる大きな特徴だと感じます。

　もともと自然と共にあった信仰が神道になったと言われますし、縄文からの生き方とつながりがあるわけです。

　つまり争いがない生き方です。

　すべてを尊重する生き方です。

　だから、認めて、取り込んで、自分たちの神様にしてしまう。

　そうして生まれたのが、八百万の神々ということでしょう。

　後ほど例を挙げますが、神道に見られるこういった性質こそ、日本人の性質そのものだと思えます。

　だから先に述べたように、神道は、宗教と言うよりも、日本人の習慣そのものだと思うのです。

### **日本人の特性**

　神道と合わせて考えたときに、日本人の性質がよく理解できる気がします。

　それは、外国の様々な文化を認めて、取り入れて、自分たちに合わせてカスタマイズしてしまうという能力についてです。

　これは神道の性質とまったく同じだと感じます。

　例えば、漢字です。

　日本は、大陸から伝わってきた漢字を取り入れました。

　しかし、漢字を表音文字としても使用し、日本語での記録もしました。

　そうこうしながら、さらにカスタマイズしていき、平安初期には、「ひらがな」や「カタカナ」を作ってしまいました。

　完全に日本独自のものにしていったのです。

　取り込んで、日本のものにしてしまったわけです。

　他にもあります。

　生活に溶け込んでいるものとして、「クリスマス」など分かりやすいのではないでしょうか。

　もともとはキリスト教の行事ですが、日本はまったくキリスト教と関係なく、季節の行事として取り込んでしまいました。

　これには、もちろん賛否両論あるかと思いますが、私は日本の特殊性が発揮されたものだと思います。

　キリスト教の方からすると、なんだこれは！と思うかもしれませんが、日本人にまったく悪意はないのです。

　ちなみに自分の後輩に、実家がお寺の人物がいましたが、話を聞くと、家でクリスマスを祝っていたそうです。

　それぐらい、宗教と関係なく、生活の一部として浸透している例と言えるのではないでしょうか。

　このように、新しいものを単に取り入れるのではなく、独自に進化（時には退化もあるかもしれませんが）させて、自分たちのものにしてしまうというところが、日本人の特性として見られます。

　世界の文化が日本に生き残っているという話もあります。

　こういった究極とも言える特殊な性質や姿勢こそが、日本人の誇るべき能力なのではないでしょうか。

　これこそが、縄文から、遺伝子そのものに受け継がれた性質そのものなんだと思うのです。

# **第三章　和の心**

　さて、話を根本に戻していきます。

　そもそも、本書で追究しているのは、

**今後の日本が、何を大切にするべきなのか**

**どうしたら人生百年時代を楽しく送ることができるのか**

ということです。

　これに答えはあるのでしょうか。

## 

## **一　大切にするべきこと**

### **程度の低い二元論からの脱却**

　今後の日本が、何を大切にするべきなのか

　どうしたら人生百年時代を楽しく送ることができるのか

　これに対する一つの答えが前章で述べた、認めて取り込む姿勢だと思います。

　もちろん、何でもかんでも、すべてを受け入れるという話ではありません。

　あくまでも、相手の意見をいったん認める、そのために聴くということです。

　お互いの考えを確認して、認めた上で、もちろん受け入れてはいけないものも時には出てくるかと思います。国際関係など、人と人ではなく、国と国の話になると、まさにこういった問題が出てくると思います。

　ですが、そういう話とは別に、今の世の中を見ていて感じるのは、考え方が白か黒かしかなくなって、程度の低い二元論になっているということです。

　自分は白だから黒の話は聞く気もない、認めないという姿勢では、薄っぺらな考えにしかならなくなります。

　自分の考えが、たとえ白だとしても、黒の考えをきちんと知っているということは大切なことだと考えます。

　それが深みになるのです。

　ですから大事なのは、相手の考えを知って、認めることなのです。もしかしたら白に限りなく近い灰色が、最良である可能性もあるわけです。

　その可能性を探った上での白なのか、はじめから感情論で決めつけた白なのかでは、同じ白でも、まったく異なる白になるという話です。

　そして、相手の考えを知るためにも、話を聴くことが大事だということです。

　その上で、つまらない対立に持っていく、程度の低い二元論に落とし込むのではなく、相手の意見を認めて、時にはうまく取り込むことで、新しいものに発展させていくことができるかもしれません。

　大事なのは、可能性を探る行為だと思います。

　ですが、ここでわざわざ言うまでもなく、日本人はこれをもともと実践していました。

　その大切なことを忘れているだけなのです。

### **聖徳太子の偉大さ**

　聖徳太子がいなかった説などもありますが、聖徳太子の『未来記』や『未然紀』が実在してしまっているのにそれはどうなんですかと聞きたいところです。

　ですが、それはまた別の話なので、ここでは聖徳太子が一人の人物を示そうが、複数の人物の融合であろうが、まったく問題にするつもりはありません。

　さて、先ほど、日本人が大切なことを忘れているという話をしました。

　要するに、日本人は、認めて取り込んで発展させるという行為そのものを、もともと大切にしていたということです。

　それこそが、聖徳太子の十七条の憲法にある

**「和をもって貴しとなす」**

そのものです。

　これを大切にして、実践できればいいのです。

## **二　和の心のあり方**

　本書の題名にもなっている和の心についてまとめていきます。

**「和を以て貴しとなす」**

　を実践するために前提となるのは、相手の話を聴くことです。

**相手の話を聴く**

　これはやろうと思えば、誰にでもできる簡単なことですが、意識が常に自分中心になっていて、自分の利益しか見えていない人には実践することが困難かと思います。

　ですから、必要なのは、心の余裕です。

　心の余裕というのは、自分自身に向いている意識の矢印の向きを、少しだけ外に向けることだと考えます。

**心の余裕をもって**

**相手の話を聴いて**

**認めて**

**取り込んで**

**発展させる**

ということが大事です。

**対立が生まれない心のあり方**

です。

　自分と異なる意見は、敵対する意見ということではなく、見方を変えれば、自分とは別の視点からの新しい意見でもあるわけで、それは参考にするべき重要な考え方かもしれません。

　そういった姿勢と考え方で臨めば、敵の存在しない世界、敵自体を作らない世界になると思います。

　いや、そもそも

**敵というカテゴリーを作らない世界**

になります。

　そんな世界を創る心のあり方こそ、私が考える和の心です。

　和の心を広げていくことができれば、誰もが未来に希望をもてる日本になっていくのだと確信しています。

　そんな中での人生百年時代であれば、その世界は輝いて見えるのではないでしょうか。

　年齢に関係なく、誰もが生き生きと輝く未来を望みます。

　そのためには、まず、一人一人が心の矢印を外側に向けていくことが必要なのです。

　和の心でいっしょに明るい未来を創っていきましょう。

# **おわりに**

　最後までお読みくださり、ありがとうございます。

　私は普段、パソコンのスキルアップサポートを主として、パソコン関係の何でも屋のようなことをしているので、それをご存じの方は、パソコンの本だと思ってしまったかも知れません笑

　まったくパソコンに関係のない一冊になりました笑

　扱う内容それぞれが、深掘りすると大変なことになるものばかりだったため、省略する部分は省略して、厳選した結果、特に歴史部分などでは、もっとそこを知りたかったという箇所があったかもしれません。

　そこはぜひとも、ご自身で調べてみて欲しいと思っています。

　なにしろ、今は、調べれば知ることができます。

　ですが、知りたいと思わなければ、一生知ることなく過ごすことになってしまう仕組みにもなっています。

　本書が、新たな情報を調べるきっかけになれば、嬉しい限りです。

令和六年九月吉日　　晴田　武陽

# **PC-SSSのご案内**

パソコン関係のご相談は随時受け付けています。

PC-SSS　LINE公式　<https://lin.ee/zQrPw0e>

PC-SSS　web　<https://pcskill-take-r.com/>

たけあき　Ｘ　<https://x.com/HRT4212>

自己紹介　<https://note.com/pcskilltakeaki/n/na36c8a909a36>